

# いち・にの・さんしん

原三信病院 広報誌

April 2006 NO. 15



(財)日本  
医療機能評価  
機構認定病院

病人のための病院

病院理念



病院基本方針

- 一、質の高い医療
- 一、居心地の良い環境
- 一、心のこもったサービス

作品：写真部提供（佐藤秀次「春らんまん」）

春に思う

副院長 江口 徹

春になり桜の花を見たり、トリノでの荒川選手や王ジャパンの金メダルを見ていると日本人の持つ情緒や形に改めて気づかされ「日本とは」「日本人とは」「素晴らしい国であり、国民であるということに改めて思い至ったりします。

今、日本社会はバブル崩壊後の長期間の景気低迷からやとと抜け出したかと思うと、少子高齢化や日本人人口の減少という問題に直面しています。これまでの「論理」と「合理性」に基づく「市場原理」「リストラ」頼みの改革では社会の荒廃は食い止めることはできず、世に蔓延する経済一辺倒の風潮を招いています。4月より診療報酬が3.6%下げられました。これは財務省の主導による財政改革の名を騙った弱い国民を切り捨てる改悪です。ほとんどの病院は赤字で、私共の病院でも1/2パーセントの税引き前利益しか出ていません。2002年のマイナス改訂以後、経費節減は限界に達しており、今回の減収は医療従事者の人件費に影響を及ぼしかねません。他の業界では、今回の春闘でベースアップが復活できたようですが、医療に携わる者には再び冬の時代が訪れようとしています。

「ナイチンゲールの誓詞」にあるような奉仕の精神は我々が全てが持つておりますが、犠牲の上に立つ組織は長くは持ちません。私たちも頑張りますので、患者様や家族の方々にも、地域に根付いた病院として末永く育てていただきますようお願い申し上げます。

日本人がその美徳として持つている「家族愛」「郷土愛」「祖国愛」そして「人類愛」が社会に溢れるような時代が少しでも早く来ることを、心から祈って巻頭言に代えさせていただきます。



# 病院にゆす

## 地域住民・地域医療従事者研修会開催報告

当院は、「博多区大博町」に開院して今年で創立127周年を迎えます。

これまでの長年のご厚情に対して何かお役に立てることはないかと思ひ、昨年10月より地域住民の方と地域医療従事者の方を対象とした勉強会を始めました。



地域住民勉強会



地域医療従事者勉強会

所等にも医師やスタッフが伺いしてお話を致します。  
今後とも地域に密着した病院として皆様のお役に立てる情報の提供を継続していく所存ですので、よろしくお願ひいたします。

医療連携室次長 大谷 哲也

### 【今後の開催予定研修内容】

#### 地域住民

- ① 4月…尿失禁について
- ② 5月…高額療養費制度について
- ③ 6月…脳と健康(認知症の予防)

#### 地域医療従事者

- ① 4月…診療報酬改訂(医院・クリニック向け)
- ② 5月…脳と健康(認知症の予防)
- ③ 6月…排尿障害をどうとらえるかpart 2

## 医療トピックス

～アスベスト問題～

アスベスト(石綿)は天然の鉱物繊維で、熱、摩擦、酸やアルカリにも強く、丈夫で変化しにくいという特性をもっており、また安価なので建築材料などに利用されてきました。具体的にはビル、倉庫、駐車場などの建物で、耐火・断熱・防音の目的でセメントと石綿を混ぜて吹き付けられています。石綿には数種類があり、白石綿、青石綿、茶石綿の3種類が主に使用されました。1972年にはWHO(世界保健機構)が石綿の発がん性を指摘していますがその後も使用は続けられ、日本では青石綿、茶石綿が1995年に、白石綿が2004年にその製造・輸入・使用が禁止されました。

石綿の繊維は、目に見えないくらい細かいため、飛散しやすく、それらを吸入すると悪性中皮腫(胸膜、腹膜)、肺癌や、悪性ではありませんが石綿肺などの原因になることが知られています。肺癌は石綿以外の原因が多くあり(要するに喫煙)ですが、悪性中皮腫は石綿が原因と考えられています。

胸膜悪性中皮腫は石綿の吸入から20～50年後に発症し、初発症状は息切れ、胸痛が多く、発病後余命はいろんな治療を施しても6～12ヶ月というのが現状です。



▲ 茶石綿(アモサイト)



▲ 青石綿(クロシドライト)



▲ 白石綿(クリソタイル)

(社)日本石綿協会提供

胸部外科部長 廣田 伊千夫



- 当院は、救急指定病院です。急患の患者様は救急外来にて**24時間365日診察**を行っています。
- 当院では医療機関の機能分担と地域連携を推進しています。従いまして、現在他の医療機関に受診中の方は**紹介状**をご持参下さいますようお願いいたします。





職場紹介コーナー

歯科編

当病院の中に歯科があることはあまり知られていませんが、入院中の患者様と外来の患者様の歯科治療を行っています。

一般的に歯の治療は敬遠されがちで、痛くて我慢できなくなつてやつと治療に行かれる方が多いのですが、当歯科を受診される患者様は高齢であつたり病気のために長い間歯科受診を避け続けてこられた方が多いようです。

入院中は口の中の状態がさらに悪化しやすいので、あらゆる困った問題に対応できるようにしています(歯科矯正、インプラント、大がかりな口腔外科処置以外すべて)。

最近とくに力を入れているのが口腔ケアや口腔リハビリ、摂食・嚥下訓練です。歯周病などのお口の健康増進や健康管理については患者様にしっかりと認識を高めていただくように予防処置や指導を行います。

また、最近では睡眠時無呼吸の患者様の歯科的な治療を専門外来と連携して行っています。

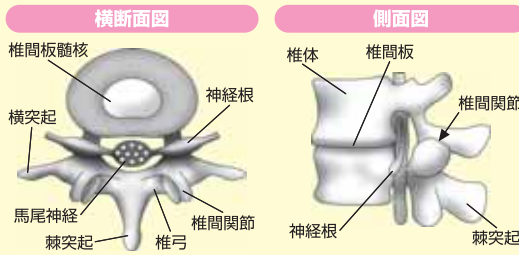


歯科 田籠 祥子

医学雑学講座

腰痛について、整形外科編その①

「腰痛」は、生涯一度も経験したことがない、という人はほとんどいないほど誰もが経験することのある状態(病態)です。実際に日常の整形外科診療では腰痛を訴えて来院する患者様が最も多いといえます。さて、この「腰痛」とはどのようなものなのかについて3回に分けて紹介します。



まず正常の腰の構造ですが、図のようにつ、前方に骨椎体と軟骨椎間板が交互に重なつている柱となる部分があり、中央には脳から繋がる脊髄・神経組織、そしてその神経組織を取り囲むように骨性の椎弓や複数の突起構造があります。これらの骨構造の周囲を取り巻くように多くの筋肉があつて背骨の動きをコントロールしています。従つて、背骨の重要な働きは、①**身体**の**支持**と**運動**、②**神経組織の保護**、の二つといえます。腰痛はこれらの構造物すべてが原因となつて生じます。

まず最もポピュラーなぎっくり腰(急性腰痛症)ですが、これはちよつとした拍子に激しい腰痛を生じ、わずかな動きも困難になるようなものです。原因としては、

①椎間板の急性有痛性の変性、すなわち、椎間板軟骨がちよつとつぶれて強い痛みを生じたもの、

②後方の小さな椎間関節の捻挫、

③腰周囲の筋肉の挫傷(肉離れ)、等が

原因を明らかにすることは困難ですが、いずれの場合も数日から1週間程度の「腰の安静」で激しい痛みは治まつて、ある程度の日常生活は可能になっていきます。

椎間板の変性は年と共に徐々に進んでいき、周囲の骨の変形や骨と骨のずれ、ゆがみを生じて変形性腰椎症となつていきます。個人個人で程度の差はありますが、大部分の人に起つてくるもので、ちよつと無理をするだけで腰痛を起したりします。これも一時的には強い痛みを起しても、それがずつと持続することは少なく、「安静」や薬、温熱療法などで大部分は落ち着いていきます。中には慢性化するものもありますが、ある程度の日常生活は保たれます。また、どうしても強い痛みが取れなくて手術的治療まで必要になるケースもありますが極めて稀です。

さて、次回からは「腰の安静」とはどういうことかについて、さらに骨や神経が関係する腰痛を取り上げる予定です。



整形外科部長 高島 一雄

薬のママ知識

「小児へ薬の与え方」

①乳児は、胃の噴門部の緊張が弱くすぐに吐くため、薬を与えるのは空腹時がよいと言われています。粉薬は、少量の水で団子状に練り清潔な指で上あごにすりつけてその後水やミルクを与えます。ミルクに溶かして飲ませるのはミルク嫌いになることもあるので避けます。

②幼児では原則としてそのままか、全量のみる位の水に溶かして飲ませますが、ゼリーなどに薬を練りこんで二口で食べさせる方法もあります。最近は服薬補助用のゼリーが薬局で売られています。工夫してその小児にあつた方法を見つけてみましょう。

③薬の時間だからといって、寝ているのを無理に起したりせずに、子供の様子を見て時間や食事にとらわれず与えた方が良いでしょう。

④坐薬は、挿入してから15分位で溶け、4〜5時間効果が持続しますから、効き目が現れないからといってすぐに2個目を入れられないでください。

⑤時間毎に飲まなければならない薬でも、服薬に関しては医師や薬剤師に相談して、子供の生活時間に合わせて無理のない時間や回数を選んでもらうと良いでしょう。

薬剤科科長 後藤 純江

編集後記

当院では、昨年10月より地域や医療従事者の方々を対象にした勉強会を開催しております。これは、日常生活に役立つ医療情報の提供を目的にしており、これからも地域に根付いた病院づくりを行いたいと考えております。

この広報誌に対する皆様のご意見も含め、意見箱などをとおしお聞かせ頂ければ幸いです。

広報委員会 委員長 原 直彦

# わが町のホームドクター



ホームドクターのご紹介をさせていただきます。私たちは、地域の先生方と協力して皆様のお役に立つよう努めています。どんなことでもホームドクターにご相談ください。

※ 診療時間は各施設にお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

**施設名**

## 博多南ビル内科クリニック

**登録医** 安部 紘一郎

**住所** 福岡市博多区博多駅南1-3-11 博多駅南ビル4F

**電話番号** 092(451)3030

**診療科** 内科・循環器科・消化器科

**診療日** 月～土(土AMのみ)

**施設名**

## 国武耳鼻咽喉科クリニック

**登録医** 国武 博道

**住所** 福岡市博多区博多駅東1-13-31 スワン博多ビル3F

**電話番号** 092(474)8189

**診療科** 耳鼻咽喉科・気管食道科・アレルギー科

**診療日** 月～土(水土AMのみ)

**施設名**

## つくしクリニック

**登録医** 小林 恒善

**住所** 福岡市博多区博多駅東2-1-1 リコー近鉄ビルB1F

**電話番号** 092(451)2174

**診療科** 内科・胃腸科・循環器科

**診療日** 月～土(土AMのみ、第2・4休診)

**施設名**

## 内科麻酔科 原田医院

**登録医** 原田 迅明

**住所** 福岡市中央区天神3-2-26 天神原田ビル2F

**電話番号** 092(741)0584

**診療科** 内科・麻酔科

**診療日** お問い合わせください。

**施設名**

## かわなみ医院

**登録医** 川浪 喜代司

**住所** 福岡市中央区六本松4-8-15

**電話番号** 092(712)5065

**診療科** 胃腸科・外科

**診療日** 月～土(水・土AMのみ)

**施設名**

## おおがみ医院

**登録医** 大神 延喜

**住所** 福岡市東区多々良1-7-2

**電話番号** 092(663)1919

**診療科** 内科・外科・消化器科

**診療日** 月～土(水・土AMのみ)

※ここで紹介する先生方は、当院の開放型病院制度(医院・クリニックの医師が当院において共同で診療ができる)の登録医になって頂いている先生です。

救急指定

## 原三信病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院



TEL ■ 092(291)3434  
FAX ■ 092(291)3424  
E-mail ■ info@harasanshin.or.jp

福岡市博多区大博町1-8



<http://www.harasanshin.or.jp>

● **診療時間**

月～金曜日 9:00～13:00 14:00～17:00  
土曜日 9:00～13:00

※日・祝祭日および8月15日・12月31日～1月3日はお休みです。但し、急患の患者様は、救急外来にて診察いたします。

● **診療科目**

総合診療科・循環器科・消化器科・呼吸器科・糖尿病科・リウマチ科・外科・血液内科・腎臓内科・脳神経内科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・産婦人科・放射線科・麻酔科・臨床病理科・歯科・人間ドック・睡眠呼吸障害センター